

「INSPIRA」の高速モデル発表

優れた生産性、使いやすさ追求

インシダ

インシダ(京都市左京区、☎075・771・4141)は、使いやすいことや安定稼働を追求した縦型ビロー包装機「INSPIRA」の高速モデルを発表した。高速かつ美しい包装仕上がりを実現するとともに、オペレーターの作業負担を効果的に低減する本体構造やフィルムと紙資材が兼



JAPAN PACKで披露

用できる点なども大きな特徴。最大毎分160袋の処理能力を備え、あらゆる製造現場の生産性向上に貢献する。



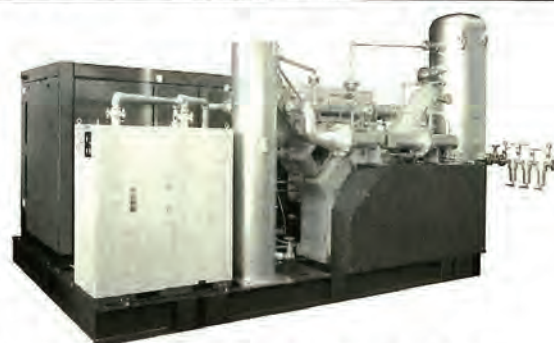
紙資材にも対応

INSPIRAは、優れた生産性を備えるほか、オペレーターの作業負担を軽減するアークセンシ

リティが大きな特徴で、人間工学に基づいて本体を設計。女性でも無理のない姿勢で簡単にフォーマーの着脱などが行える。

高速かつ安定した処理能力を備えるほか、スマートフォンのような使い勝手とクラフィカルなアイコンで直感的な操作を実現する。

先のJAPAN PACKでは、同機にオートスライサーを搭載したシステムを披露。紙資材を使用した実機によるデモンストラクションが行われ、大きな関心が寄せられた。



PETボトルなどの成形現場で活躍する「KJシリーズ」

「ドリンクジャパン」に模型など出展
加地テック(堺市、☎072・361・0881)は、11月27日から始まる「第4回ドリンクジャパン」に、2017年から販売展開するPETボトル成形用高圧オイルフリーコンプレッサー(スクリーン&ブラスター式)「KJシリーズ」を出品する。
時代のニーズを踏まえ高効率・省エネ・省スペースを実現。またオイルフリー(無給油式)圧縮機による昇圧のため、極めてクリーンなエアを供給できる。
スクリーン&ブラスターは、一流の専用メーカーの高圧力4.5MPaまで昇圧する設備として、最適なエア量を供給する機種が選定可能。17年のドリンクジャパンで初公開してから、2年間弱で20台近い受注を得ている。
需要家におけるエネルギー効率を考慮し、今回のドリンクジャパンに合わせて、インバ

P&G 海洋プラスチックごみから洗剤ボトル 国内で回収・再生し55万本生産

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(以下、P&G)は、ボトル原料の一部に海洋プラスチックごみを



再生利用した台所用洗剤「JOY Ocean Plastic」の採用は、P&Gとして日本初の取り組み。原料となるごみの回収からボトル製造までの全工程を日本国内で行う。

「JOY Ocean Plastic」は、再生された海洋プラスチックの製品ボトルへの採用は、P&Gとして日本初の取り組み。原料となるごみの回収からボトル製造までの全工程を日本国内で行う。

海洋プラスチックごみを再生利用する。再生された海洋プラスチックの製品ボトルへの採用は、P&Gとして日本初の取り組み。原料となるごみの回収からボトル製造までの全工程を日本国内で行う。

ヨイコンパクト モルティフウォータリーの香りと同じ。同社の取り組みに賛同する小売店を通じて、11月上旬から全国で販売する。

同社は「海洋プラスチック問題について、より多くのお客さまに知っていただき、関わっていただくきっかけを提供できると考えている」としている。

共同印刷(東京都文京区、☎03・381

フォーカス2019

ジャロック

ジャロック(東京都中野区、☎03・3367・3810)は、同社の商品の見学・体験ができる物流機器専門展示体感スペース「ジャロックテクニカルセンター」を10月7日にリニューアル。本紙では3回にわたってJTTCの展示製品を紹介している。3回目の今回は、作業を快適にするソリューションで作業を快適に

クロウラー台車や大型ファンなど



ユニットを装着するだけで、走行をアシストする「アシスト台車」も用意。重量物の搬送や坂道使用などで大きな効果を発揮する。
倉庫内や工場内を快適にする空調機器もラインアップ。注目は、直径7寸にも及ぶ大型の空気循環装置「レボリューションファン」だ。規格は直径2.5〜7.5までの5種類を用意。ヘアドライヤー程度の消費電力で扇風機50台分の風力効果がある。夏季では体感温度を2〜3度下げて倉庫・工場内の熱中症対策に、冬季には天井付近に滞留する温かい空気を循環させ、暖房効率を向上させる。このほか、空調機器ではミストを噴霧し気化熱の効果で体温を下げる「ベントクーラー」、ミストではなく気化させた冷たい風を送る「ベントクーラー」を取りそろえる。(おわり)



JTTCでの体験は完全予約制。問い合わせは左記まで。
▽住 所 埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根3-475番地
▽TEL 0120-70-3810

非常時に活用、広がる需要
キューブ型フィルム製コンテナ

キュービック型フィルム製コンテナ「ハンデキューブ」の提案を求めている。「食品開発展2019」JAPAN PACK2019に出展、持ち運ぶしやすい点や優れた廃棄性をアピールした。災害時など、非常用給水袋としての需要がますます増えているという。

森永製菓(東京都港区)はこのほど、は「タース」、「おかしジュ」のグレイプ味、は当初、「BtoC」の需要を多く見込

森永製菓 おかしジュ 菓子